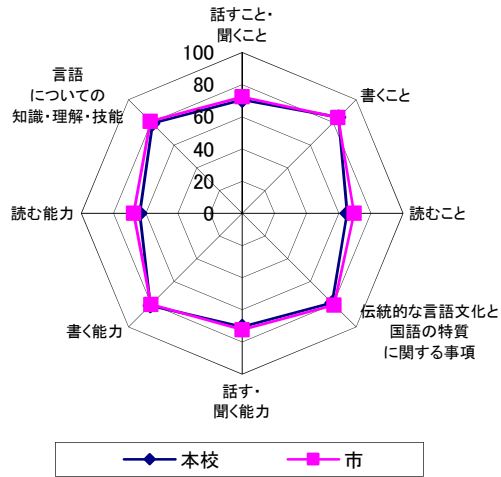


宇都宮市立国本中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	70.5	72.4	70.5
	書くこと	84.5	84.1	70.0
	読むこと	65.2	69.5	64.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.9	80.8	77.7
観点別	話す・聞く能力	70.5	72.4	70.5
	書く能力	81.0	80.2	68.0
	読む能力	63.7	67.5	62.4
	言語についての知識・理解・技能	79.0	80.8	77.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

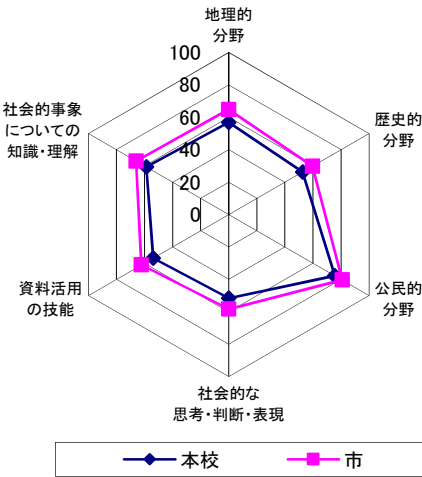
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	本校の正答率は、市の平均正答率よりも1.9ポイント下回っている。 ○話の展開に注意しながら聞き取る問題の正答率は90ポイントを超える。 ●聞き手の意見を反映しながら、論理的な構成や展開を考えて発表する問題の正答率は市平均を上回るものの、50.0ポイントであり、課題が残る。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・聞き取りの練習を継続して行うことで、話の趣旨を正確に聞き取る力をつけさせる。また、先生の話や級友の意見を聞きながらメモを取る訓練を継続的に行っていきたい。 ・授業で話し合い活動を積極的に取り入れ、相手の伝えたいことを正しく聞き取った上で自分の意見を分かりやすく述べられるようにしたい。意識して「聞く」「話す」ことにより話し合いのスキルの向上を目指す。
書くこと	本校の正答率は、市の平均正答率よりも0.4ポイント上回っている。 ○指定された文字数・構成で、読み取った内容と自分の考えを明確にして書くことができる。 ●無回答率が市平均よりも1.2ポイント上回っている。型のある200字程度の作文が「全く書けない」生徒も一定数存在することが分かる。	・自分の考えと根拠を明確にし、具体例や体験を示す練習を多く取り入れ、論理的な文章を「書くこと」への苦手意識を取り除いていく。さらに反対意見に対する反論を示すことで、より文章に強い説得力を持たせたい。 ・原稿用紙の使い方を改めて確認し、示された型どおりに書く練習をしていく。
読むこと	本校の正答率は、市の平均正答率よりも4.3ポイント下回っている。 ○文学作品の読み取りでは、登場人物の心情を的確にとらえることができる。 ●説明文の読み取りでは、文章の展開に即して要旨をとらえ、その内容を表すグラフを選択する問題の正答率が市平均を7.9ポイント下回った。	・筆者の主張とそれを支える根拠（論証）を意識して説明的文章を読もうとすることや、登場人物の言動の意味を考えて心情を読み取ろうとすることができるが、教材文以外の文章にその技術を生かし切れない。 ・漢語の多い説明的文章の読解を苦手とする生徒が多いが、朝の読書やブックトークにより読書習慣は多くの生徒に身に付いている。今後も多彩な作品に触れる機会を設け、言語感覚を磨かせたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	本校の正答率は、市の平均正答率よりも1.9ポイント下回っている。 ○中学校3学年までの漢字の読み、小学校で学習した漢字の書き、敬語についてはおおむね理解されている。 ●文法に苦手意識をもっている生徒が多く、品詞分類・用言の活用といった2年生までの文法事項を問われる問題の正答率が低い。	・「読めるが書けない」。特に小学校における既習漢字がうろ覚えで普段の生活で使いこなせていない傾向はある。定期的に漢字練習帳を提出させし、確認テストを行うことを継続し、既習漢字を復習する機会を多く設けることで定着を図りたい。 ・3年間を見通した文法学習を行い、繰り返し問題を解き、達成感を積み上げさせることで苦手意識をなくしていきたい。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	56.8	64.8	54.5
	歴史的分野	52.6	59.7	52.2
	公民的分野	75.5	80.9	69.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	51.6	58.3	49.5
	資料活用 of 技能	53.9	62.2	53.1
	社会的事象についての知識・理解	58.7	66.0	57.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

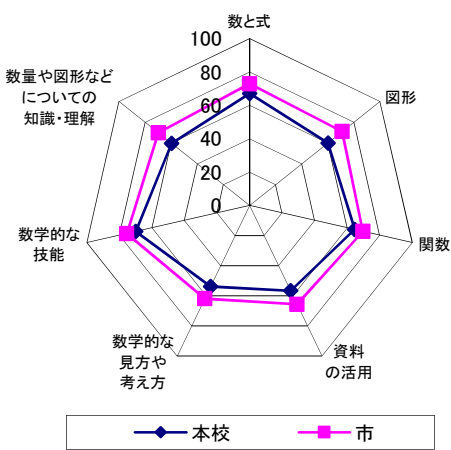
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○「日本地理」に関する問題は、全国平均と比べて高い傾向にあり、文章で答える問題についても同じく全国平均を上回っている。●正答率が56.8%で、市平均を8.0ポイント、前年度本校正答率より8.1ポイント下回った。全国平均を上回っている問題が多いが、市平均と比べると、「中国・四国」の問題以外は正答率が下回っていた。	・観点別では「思考・判断・表現」の正答率が本校は低い傾向にあるので、グループでの話し合い学習や、自分の考えをまとめて発表する学習の機会を多く取り入れる。 ・さまざまな地図やグラフ等の資料を活用し、1年次に学習する世界地理の復習も2・3年次に行う機会を増やす。 ・基本的な重要語句の反復学習を行う時間を多くとり、知識・理解の定着に努める。
歴史的分野	○「奈良時代」「江戸時代」に関する問題は、全国平均と比べて高い傾向にある。●正答率が52.6%で、市平均を7.1ポイント下回り、前年度本校正答率より5.1ポイント下回った。「江戸時代」の問題では、正答率が市平均を上回る問題もあったが、「飛鳥時代」「平安時代」の正答率は全国や市平均と比べて低い傾向がある。	・観点別では「思考・判断・表現」の正答率が本校は低い傾向にあるので、グループでの話し合い学習や、自分の考えをまとめて発表する学習の機会を多く取り入れる。 ・年表を利用し、政治・文化・経済等の歴史の流れを把握する学習を多く取り入れ、1年次に学習する時代の復習を2・3年次に行う機会を増やす。 ・基本的な重要語句の反復学習を行う時間を多くとり、知識・理解の定着に努める。
公民的分野	○正答率が75.5%と比較的高く、前年度本校正答率より22.3ポイント上回った。3分野合計の正答率は全国平均を上回っており、公民的分野の正答率が高かったことがその要因となっている。「私たちの生活と現代社会」は地理・歴史的分野との関連が強く、反復学習により理解が深まったと考えられる。●正答率が、市平均を5.4ポイント下回った。「効率と公正」の正答率が49.6%だったことが要因だと思われる。	・地理・歴史的分野との関連が強い分野では、学習をリンクさせ、更に知識理解の定着をはかる。観点別では「思考・判断・表現」の正答率が本校は低い傾向にあるので、グループでの話し合い学習や、自分の考えをまとめて発表する学習の機会を多く取り入れる。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	67.2	73.0	67.5
	図形	60.1	71.1	59.5
	関数	64.6	69.7	60.0
	資料の活用	56.7	65.6	58.5
観点別	数学的な見方や考え方	53.9	61.8	49.6
	数学的な技能	69.9	75.4	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	59.7	69.8	62.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

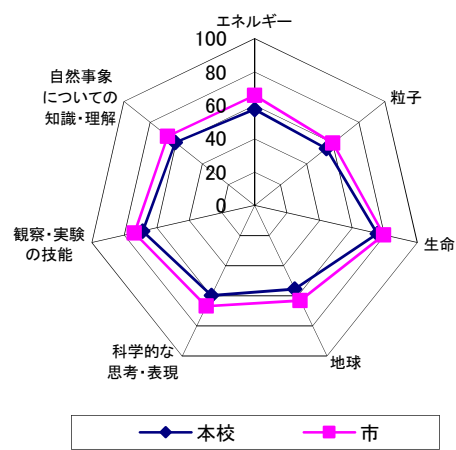
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○平方根の計算や、式の展開、因数分解などで市の平均に近い正答率だった。 ●正負の数の計算や、方程式の計算などでは市の正答率を大幅に下回った。また、連立方程式の文章題では、市の結果に対して無回答の割合が高いということが分かった。	・分数の計算や、正負の数の計算、文字式の計算など、小学生や、中学1年生で学習する内容に苦手意識を感じている生徒が多く、2年3年と学習内容が高度になるにつれ、理解が追い付かなくなってきている状態となっている。授業の折に、既習事項の確認をする時間を設け、基礎的な計算の方法についての定着がはかれるよう指導していく。
図形	○大問15の証明の必要性を問う問題では、他の問題に比べ、市の平均に近い正答率だった。 ●平面図形や証明の問題は市の正答率よりも15ポイント近く下回っているものもあり、多くの生徒が図形の単元に対して苦手意識を持っている生徒が多いことが分かった。	・面積や体積、表面積などの公式や各図形の性質に対する理解が不十分になっている様子が見られる。問題練習や復習の時間を通して、必要事項が定着するよう指導していく。また、空間図形では模型なども利用しながら、立体のイメージがつかみやすくなるよう、指導していく。
関数	○2次関数の変化の割合を求める問題では、市の平均を3.1ポイント上回る正答率だった。 ●グラフと関連した問題は市の平均よりも大きく下回る正答率だった。また、利用の問題では解答類型から、問題の概要はつかんでいるものの、回答までたどり着けていない生徒が多いことが分かった。	・利用の問題では、文章、表、式、グラフなどが結びついて理解できていない現状がある。文章があらわすものと、式やグラフがあらわすものが同じだということに目が向くように、文章から読み取れるものを利用して式を立てることに重点を置く。その際に、関数の式の形にこだわりすぎないように、書かれているものをそのまま式にし、それを変形することで関数の式になることに気付けるよう、指導していく。
資料の活用	○確率の問題では市の平均に近い正答率だった。 ●資料の活用の問題では、市の平均を大きく下回る正答率だった。	・資料の活用を学習する際、語句が多く、混同しやすいため、それぞれの意味を理解させたいうえで、多くの問題練習に取り組むよう心がける。また、2、3年時では学習しない内容のため、定着しにくい単元でもある。既習事項の復習をする時間を捻出し、学習内容の定着がはかれるよう指導していく。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	57.7	66.1	56.4
	粒子	55.0	60.0	57.4
	生命	75.4	79.4	75.2
	地球	55.6	63.1	49.4
観点別	科学的な思考・表現	59.8	66.8	57.2
	観察・実験の技能	68.8	73.8	69.4
	自然事象についての知識・理解	60.7	66.6	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

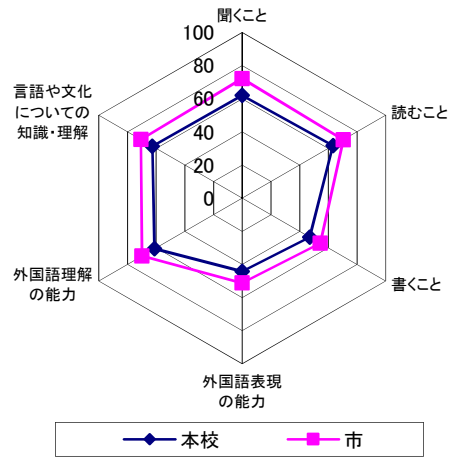
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○領域別正答率で参考値を1.3ポイント上回った。 ●領域別正答率で市平均を8.4ポイント下回った。電流の向きを逆にする条件を考える問題では13.7ポイント低かった。平均の速さを求める問題が17.1ポイント市平均より低く、他の「観察・実験の技能」の問題は市平均とほぼ同じであったため、この問題が観点別の市平均を下回る要因となった。	思考力や計算を伴う問題に苦戦している。筋道立てて考える力を伸ばすよう、自分の考えを文章で表現することや、他者と話し合うことにより、思考が深まるよう工夫していく。計算において小数点の移動に難を感じている生徒が一定数いるので、小学生での学習内容についても適宜丁寧な振り返りを心がけていく。
粒子	○ガスバーナーの使い方は61.4%の正答率で、市平均を上回った。酸化銅の還元の実験で、石灰水からガラス管を取り出した後に火を消す理由は、正答率86.8%であり、理解ができています。 ●領域別正答率では市平均を5ポイント下回った。	興味・関心を持って観察・実験に取り組んでいる状態を維持していくとともに、他者の行動を見ていることに終始しないよう、多くの生徒に体験を促していく。1つ1つの手順に意味があることを丁寧に指導し、理解の定着を図る。
生命	○領域別正答率は75.4%であり、参考値とほぼ同じである。花のつくりは85.1%の正答率で、市平均を上回った。動物のからだのつくりとはたらきの問題では、89.5%と79.8%の正答率で、理解が定着していると考えられる。 ●領域別正答率は市平均を4ポイント下回った。	身近な生物教材を生かし、興味・関心を高めるよう工夫を継続していく。学んだ知識の定着について、ワークの確認など工夫していく。
地球	○領域別正答率は参考値を6.2ポイント上回った。 ●領域別正答率は市平均を7.5ポイント下回った。地層に含まれている粒の大きさから土砂が堆積したときの海面の変化を推測する問題では10.3ポイント低かった。	資料からの推測や理由の説明記述など、地層・気象分野の問題がすべて思考・判断・表現の観点別問題であり、苦戦している。暗記に頼った知識にとどまらず、疑問をもち理由を考えるような指導に努めることで、科学的思考・表現力の伸長を図る。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	62.1	72.2	67.8
	読むこと	63.3	70.5	70.4
	書くこと	47.0	54.3	54.0
観点別	外国語表現の能力	44.2	51.2	49.2
	外国語理解の能力	61.1	69.8	65.8
	言語や文化についての知識・理解	62.6	70.7	74.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○英文の概要を聞き取る問題と対話の内容を聞き取り、英語で答える問題(活用)において、参考値を上回った。 ●英文の内容に合う絵を選ぶ問題(内容理解)では、市の平均を大幅に下回った。また、上記の対話の内容を聞き取り、英語で答える問題(活用)について、参考値を上回っているものの、無解答が20.2%と多いことが分かった。	・単に英語を聞いて理解することに困難さを感じている生徒が多いだけでなく、英単語の文字、音、意味がしっかりと結びついていない状況や、英文を書く際のきまり(文頭や固有名詞は大文字で書き始める、など)が定着していないことが結果から読み取れる。リスニングの機会を増やし、ディクテーションを取り入れるなどして、語法を確認したり語彙を増やしたりする工夫を行う。
読むこと	○長文の読み取り問題の中の、読み取った内容をふまえて英文を完成させる問題では、参考値を大きく上回った。また、メールの内容を把握する問題では参考値と市の正答率を上回った。 ●語形・語法の知識・理解を問う問題や、語彙の知識・理解を問う問題において、全て市の平均と参考値を下回っている。	・英単語の文字、音、意味を結びつけて覚えること、語形・語法の理解を定着させていくために、聞くこと・書くことの指導と併せて、リスニング→ディクテーション→読み取り(確認)→語形・語法・語彙の確認と練習→語彙を変えて英作文、という流れで帯学習を行う。
書くこと	○3文以上の英作文として、自分が小学生だった時のエピソードについて、まとめた内容で説明する分を書き表す問題では、テーマに沿って3文以上で解答する生徒の割合が参考値を上回った。 ●単語の並び替え問題(語順を問う問題)では、全問市の平均と参考値を下回る結果となった。また、3人称単数現在時制の肯定文・否定文を正確に書く問題においても市の平均と参考値を大きく下回った。	・3人称単数現在時制は、中学1年生での学習内容であることから、基礎・基本の定着に課題が残る生徒が多くいることが明らかである。今年度の授業時数の厳しい状況の中で、中学1、2年生での学習内容について学びなおしの時間を取って授業を進めてきたが、今後も継続して既習の学習内容について、授業の中で丁寧に復習できるように、可能な限り個に応じた指導の時間を捻出していく。

宇都宮市立国本中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
生徒を認め生かす授業の工夫	- 効果的な発問、指示、助言、板書の工夫 - 校内授業公開の推進 - 宇都宮モデルに基づく授業改善 「学習の約束」の周知、掲示	「勉強が好き」、「授業が分かる」に対する肯定割合はいずれも市の平均を下回っている。 - 授業への取り組みに関する質問に対する肯定割合は市の平均と大きく変わるものはないが、例えば「授業の始まりに席についている」の項目では、「とてもあてはまる」が52.7と低く、その他の項目についても、「とてもあてはまる」の割合で見えていくと決して満足とは言い難い状況である。
学びに向かう力の育成	「学習の約束」に基づいた学業指導 - 協働的な学習の推進 - 学習相談の実施	「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定割合は83.7と高く、ふだんの学校の授業以外の学習時間も2時間半以上と回答する生徒の割合は市の平均を超えている。しかし、「勉強が好き」、「教科の学習を好き」と回答した生徒の割合は、国語科以外全て市の平均を下回っている。このことから、「勉強が好き」ではないが、時間をかけて学習している生徒が多いことが分かる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- 生徒が教科学習を面白いと思え、意欲を持って学習に臨めるよう、宇都宮モデルに基づく授業改善を一層推進していく。
- 授業で習ったことを自分なりに分かりやすくノートにまとめたり、新しく習ったことを何度も繰り返して練習したりする生徒の割合が少ない。また、授業で習ったことをその日のうちに復習したり、テストで間違えた問題をやり直したりする生徒の割合も少ないことから、学校外での学習時間に比例した成果が出てこないと考えられる。そのため、「家庭学習として何をやるとよいか」「どのようにやったら効果的か」について各教科で繰り返し伝え、自主学習の質の向上を目指す。